

# 第62回 公開講座

## 多民族社会ハワイにおける<日系>宗教

日時 2010年6月25日(金) 13:00~14:30

場所 千里山キャンパス 尚文館 1階 マルチメディアAV大教室

講師 宮本 要太郎 (文学部教授)

現代世界は、グローバル化の急激な進行につれて多民族化が急速に進んでいる。ニューヨークやロンドンなどの大都会では多くの民族が混住し、いわゆる「人種のサラダボウル」と呼ばれる現象が恒常化していることはよく知られているが、ハワイの多民族化は、それよりもはるかに早い時期に始まっていた。その結果、今日のハワイの民族構成は、白人の血を引くものが39%、日系が25%、フィリピン系が23%、ハワイ先住民系が20%、中国系が14%などとなっており、マジョリティの民族が存在しない(複数回答)。宗教的にはアメリカ化の影響のもと、63%のキリスト教徒がマジョリティを占めるが、日系人が多いことから日系の宗教が多くみられることもハワイの特徴のひとつである。

もともと祖先の出自にひときわ強いこだわりを持ってきた日系人だが、太平洋戦争のために、そのアイデンティティは、それまで精神的な絆を帰属させてきた日本と、市民として忠誠を誓うべきアメリカという二つの「祖国」の間で引き裂かれることとなった。したがって、戦後の日系人は、そのアイデンティティの基盤を模索せざるをえなかった。民族のアイデンティティの揺らぎは、宗教にも影響している。たとえば、こんにちのハワイでは、各地で盆踊りを見ることができ、それらは日本からハワイに渡ってきた先祖伝来の宗教伝統の保持というよりも、日系人に限定されないローカルなコミュニティを結びつけるイベントとしての機能がより重視されているようである。日系人たちの間に見られるこのような意識の変化は、日本各地から集団で渡ってきた移民たちの「地縁」や「血縁」を基盤としてきた仏教や神道、さらに戦前からハワイで活動している天理教や金光教などの新宗教にとって、「日系」の宗教であることに安住することを許さない状況をもたらしつつある。事実、現在、ハワイにおいては、創価学会や世界救世教、生長の家などのように、むしろ多民族への布教を視野に入れた新宗教の方が展開してきている。

また、日系人に限らず、ハワイでは異なる民族同士の結婚が当たり前になりつつあり、混血の割合も増加の一途をたどっている。なかには二つだけではなく、四つも五つも民族の血を引く人も誕生している状況である。そのような変化は、新しい「ハイブリッド文化」ないし「クレオール文化」の興隆を促す。この流れの中で「日系」宗教はいかなる方向に向かうのだろうか。

\* \* \*

●聴講無料 予約は不要です。多数のご来場を歓迎します。  
手話通訳が必要な場合は、6月17日(木)までに人権問題研究室へご連絡ください。

第63回 10月22日(金) 13:00~14:30 「『障害者権利条約』を通して社会を見る」(仮題)

第64回 11月26日(金) 13:00~14:30 「ハンセン病問題にみる隔離と排除について」(仮題)

会場は、尚文館 1階 マルチメディアAV大教室



THINK×ACT  
KANSAI  
UNIVERSITY

関西大学人権問題研究室

〒564-8680 吹田市山手町3-3-35 阪急千里線「関大前」駅下車

Tel 06-6368-1182 Fax 06-6368-0081

ホームページ <http://www.kansai-u.ac.jp/hrs>